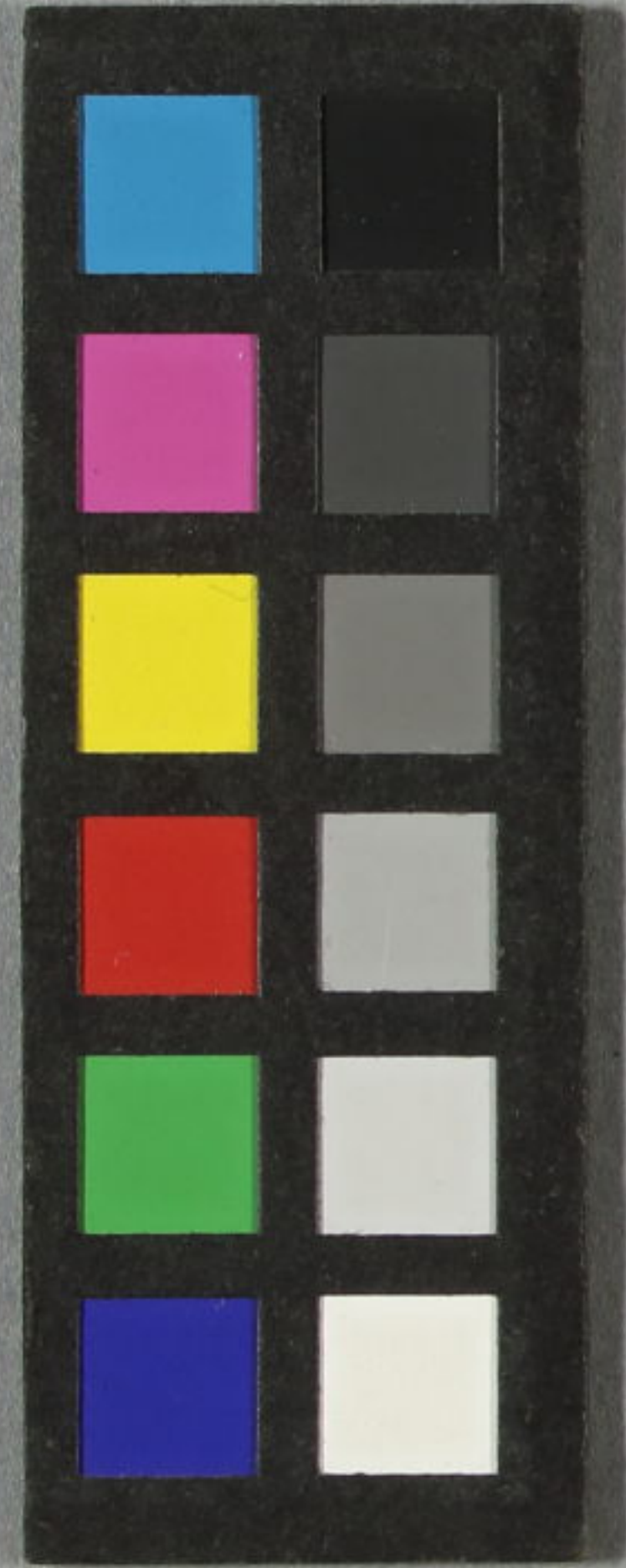


錦龜堂梓

多富
芳希畫

~ 13
3722
27

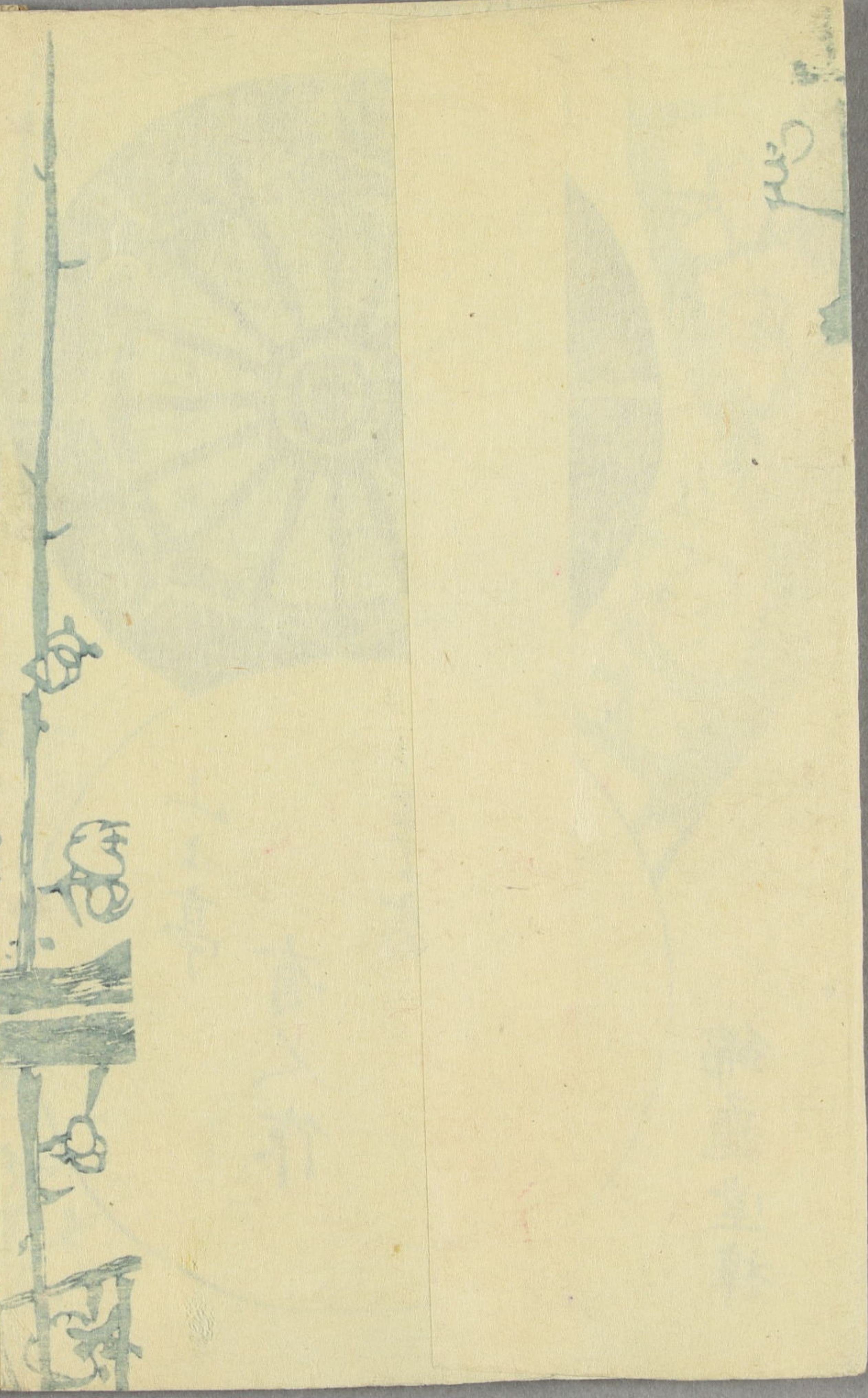




小

十四編
其の巻

小の巻
十四編



門 へ 13
3722
卷 27

御

所 櫻

標 松 録

十 卯 編

上 之 卷

山々亭有人記

後朝様芳虎画

十字亀拵



一

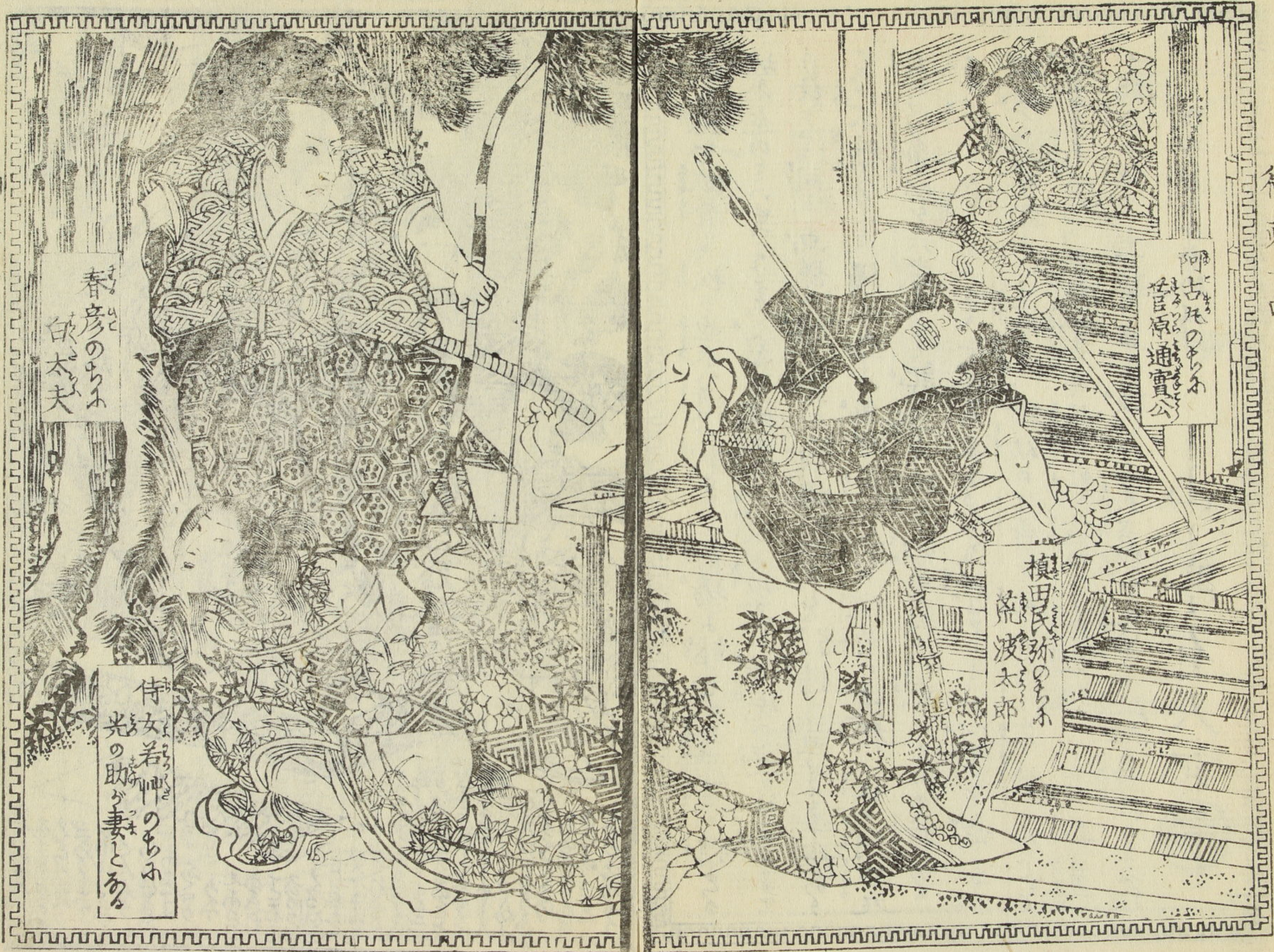
御

長の旅を倣者も。松の並木の道不厭きど宿場よ卦も其光景の傳ふる
故小龍のい善のせむ。念も御史の画組に於る也。眼先の變るを要と
画様の續る時ハ。後編の趣向を引揚て。画せる事粗あり
此史の十三編。十九丁の画組及び。前の作者の遺稿に任せ阿古丸
君の六筆の六歳ありと記せし。此弓始ありたる。或ハ十九の時あり
渡莫原米戲も。史も。婦幼の耳目を善するの。年歴あるとを
論も。未だ此先も長丁數。後の年數合ぬとつひ。聊自己
都合依て。十歳の事よ為する。其言訊を長くと此端書換るよむ

明治三庚午仲春結稿

山々亭有人記

御

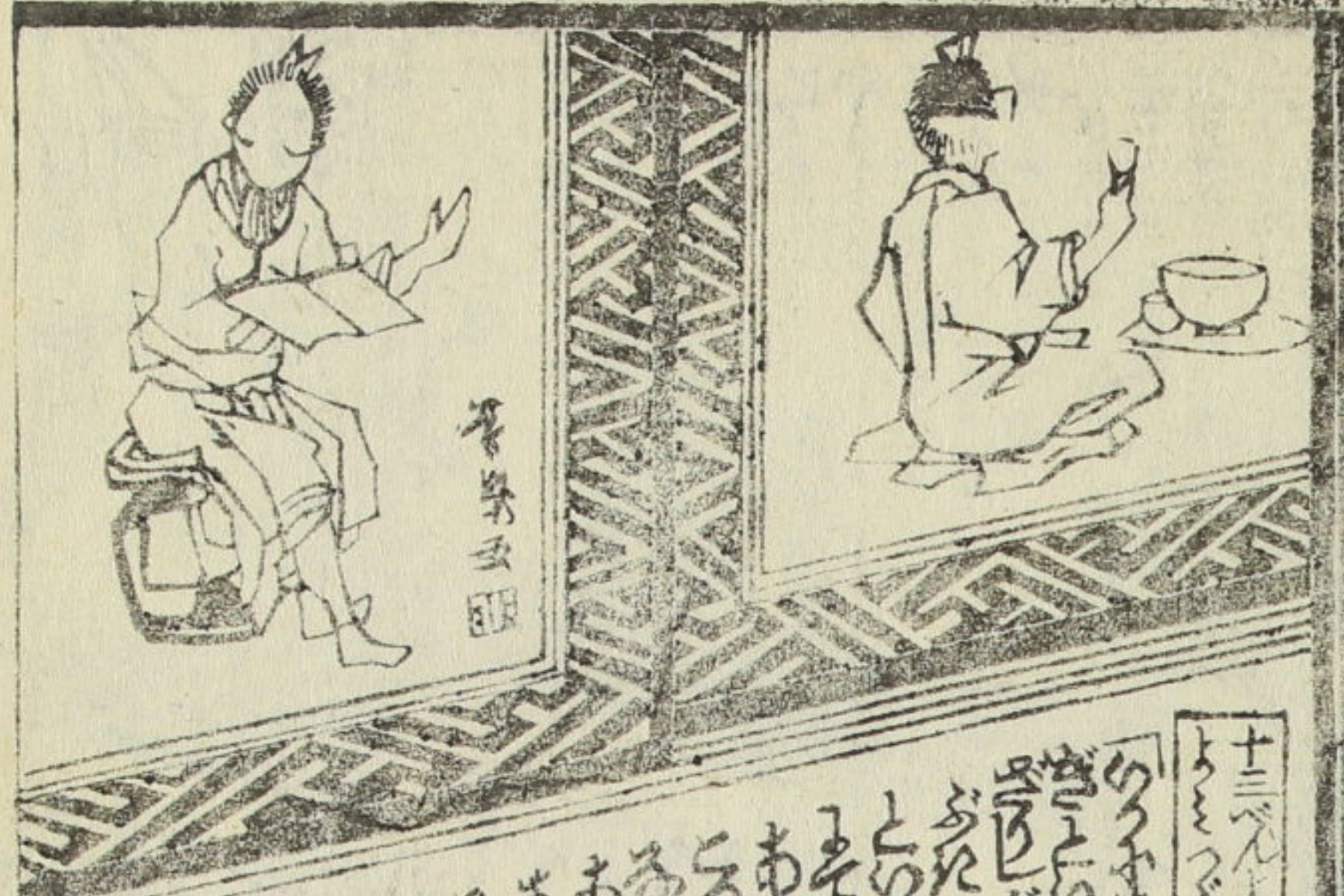


春彦のちりふ
御太夫

侍女若神のちりふ
光の助が妻とある

阿古のちりふ
任官源通實公

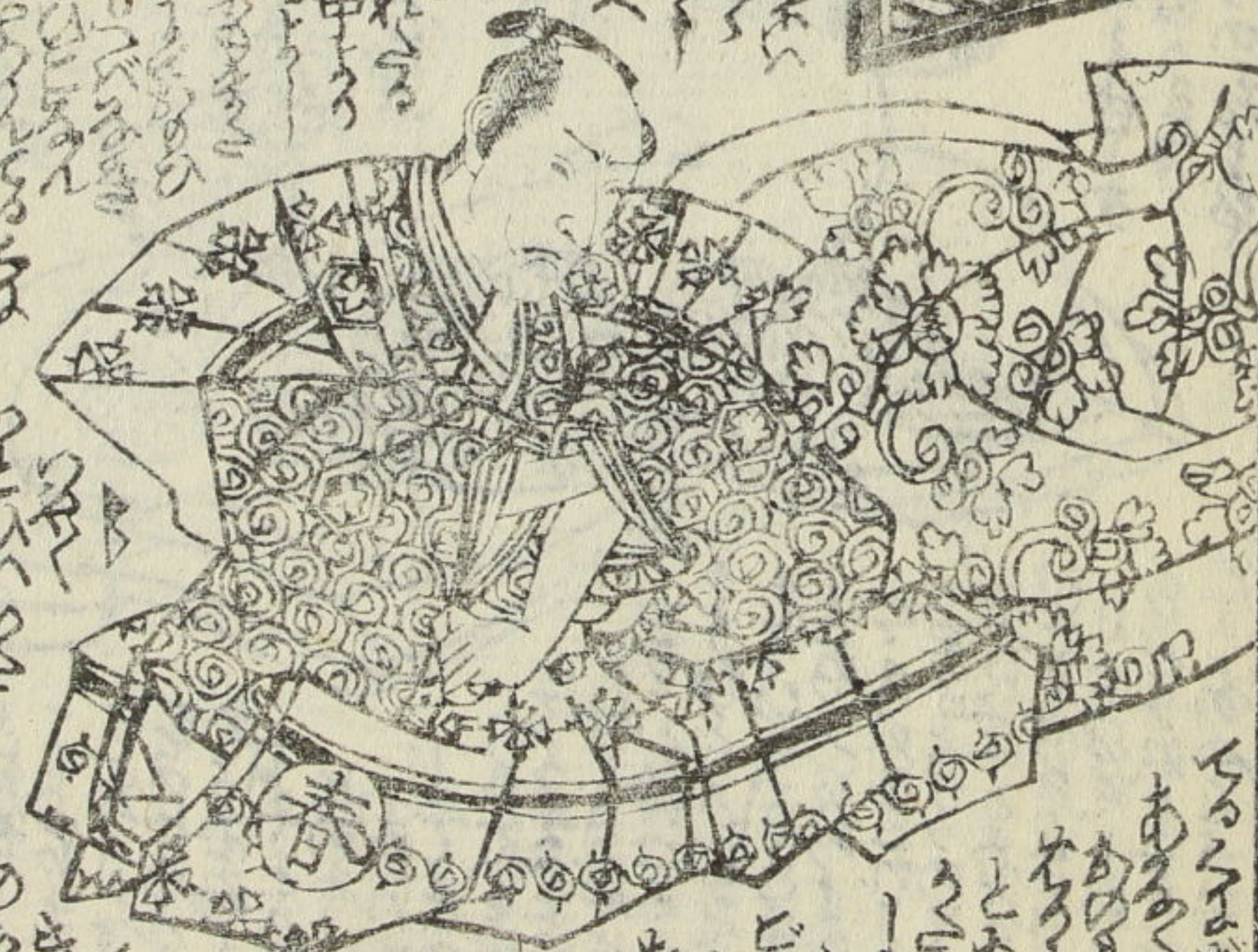
模田のちりふ
荒波太郎



茶室

小窓

十三
The following is a list of names and titles, likely related to the scene or the characters depicted. The text is written in a vertical column.



On the left side of the illustration, there is a column of text providing further details or commentary on the scene.

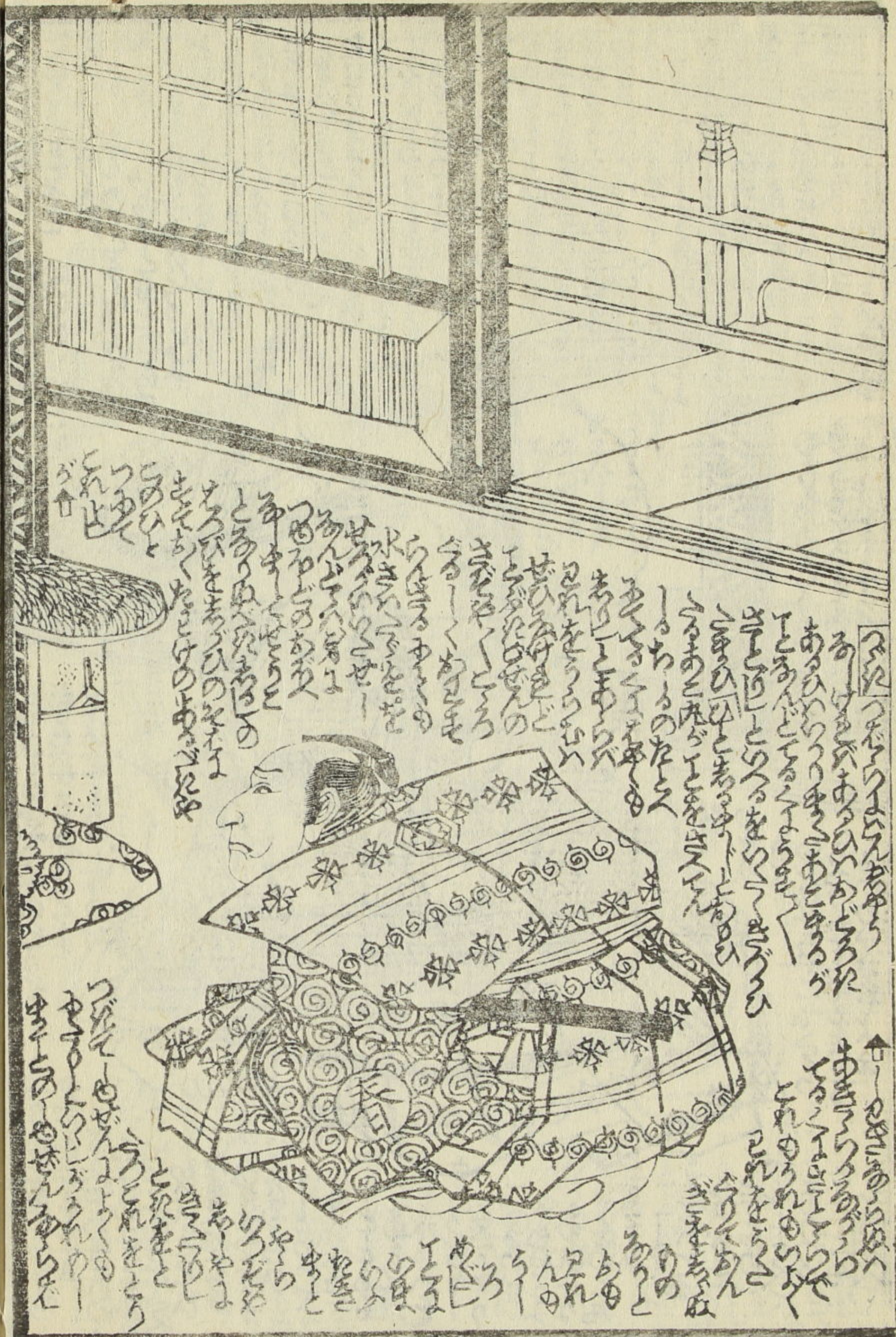
On the right side of the illustration, there is a column of text providing further details or commentary on the scene.

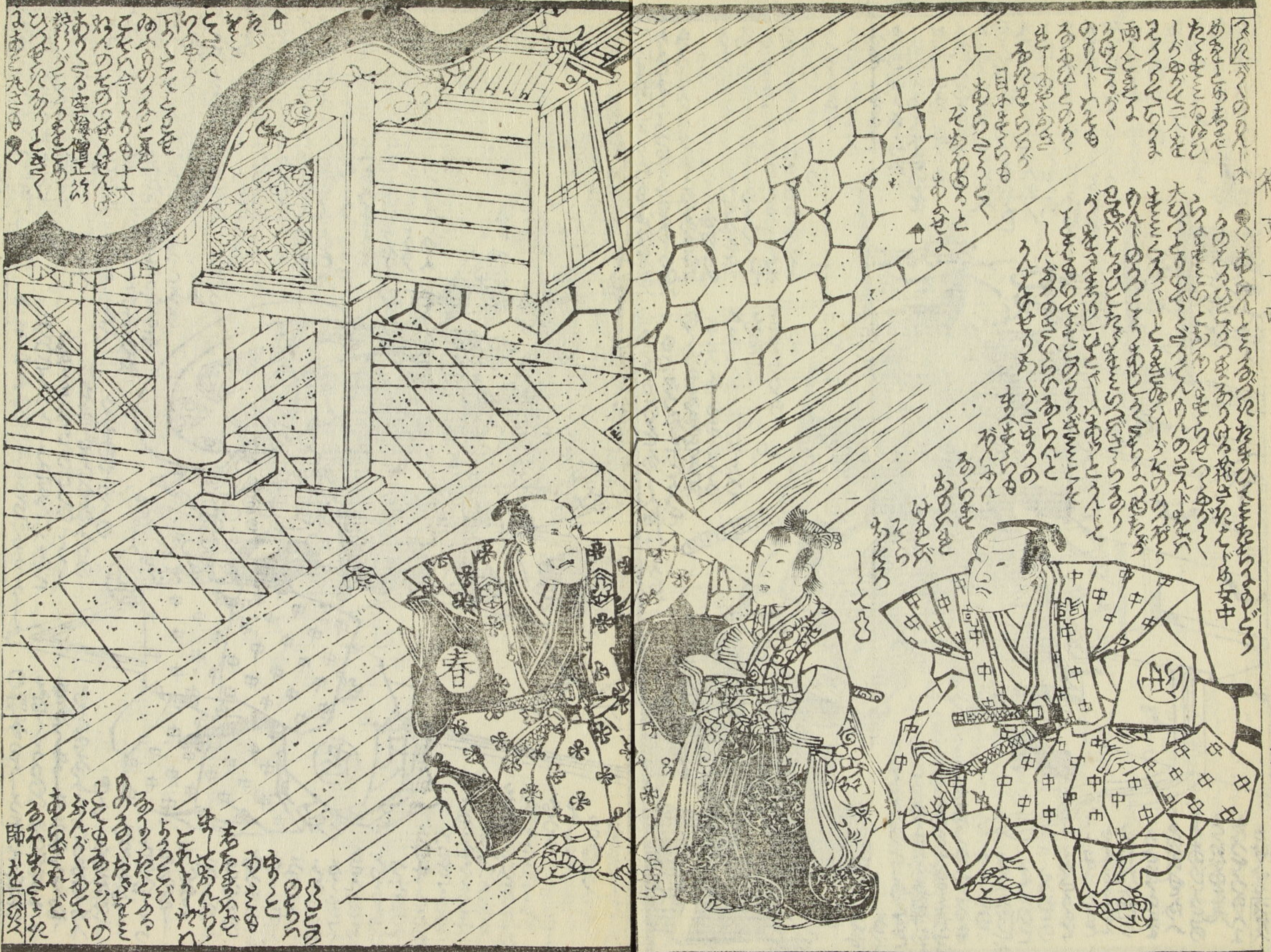


符

At the bottom of the illustration, there is a large block of text, possibly a poem or a detailed description of the scene.







あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

有人作

芳虎画
これより先は、
御所櫻梅松録
の巻二の
芳虎の
御所櫻梅松録
の巻二の
芳虎の
御所櫻梅松録
の巻二の
芳虎の



芳虎画

幻阿竹噲聞書三編

御所櫻梅松録十五編

川上行義復讎新話二編

名所東京新圖

澤村田之助曙草紙五編

武者切附本品々

坂東彦三倭一流三編

新形折本品々

白菅阿繁顛末三編

石摺略曆品々

島田一郎梅雨日記五編

作者 岡本勘造

其名高橋毒婦小傳七編

板主 網島龜吉

芳川春濤園 本起泉作

浅草五町十二番地

